

## ホルムズ海峡ショック ～止まる原油、高騰する海運市況～

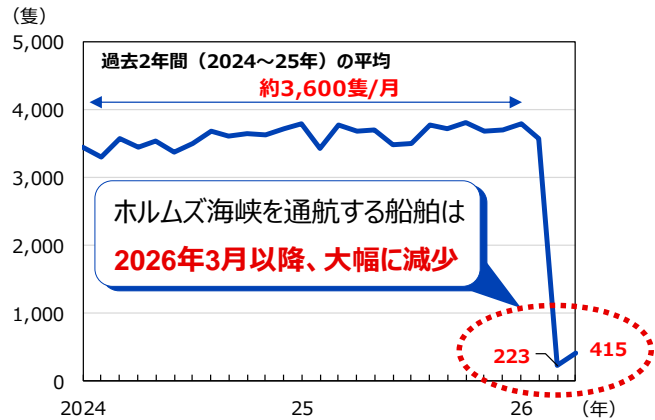
### ホルムズ海峡通航船が大幅に減少

2026年2月に米国・イスラエルによるイラン攻撃が開始され、現在に至るまで3か月近くにわたり、中東情勢は緊迫した状況が続いています。

この間、イランの南側に面し、世界で消費される原油の約2割、日本に輸入される原油の約9割が通過するホルムズ海峡では、イランの軍事勢力による事実上の封鎖が続けられています。

このため、ホルムズ海峡を通航する船舶は、従来は約3,600隻/月にのぼっていましたが、3月以降は200～400隻と大幅に減少しています（図表1）。

図表1 ホルムズ海峡を通行する船舶の隻数



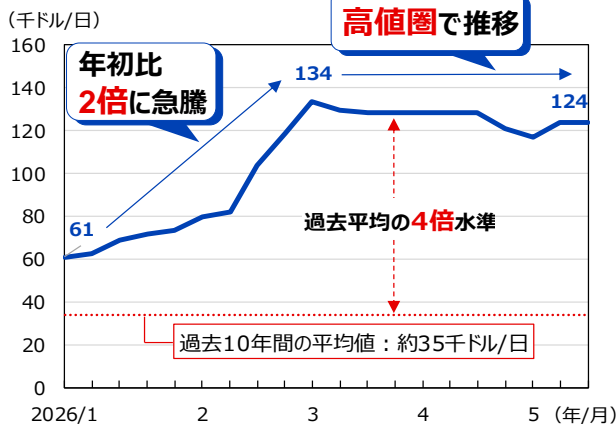
(資料) Clarksons ResearchよりひろぎんHD経済産業調査部作成

### タンカー市況は高騰

原油調達先拡大の動きからタンカーを確保する動きが活発化したため、タンカー市況は、3月には年初比で約2倍となる134千ドル/日まで急騰し、その後も高値圏が続いています。これは過去10年間の平均（約35千ドル）の約4倍に達する極めて高い水準です（図表2）。

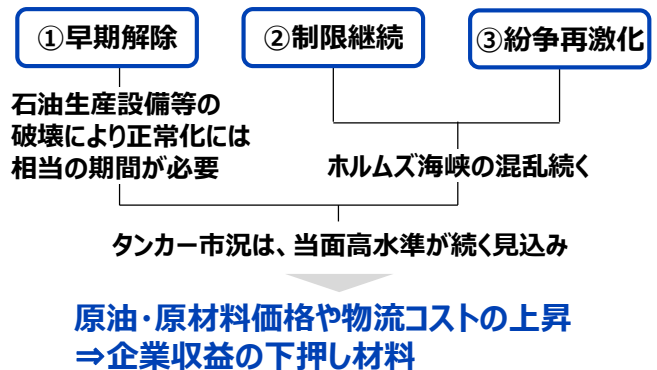
中東情勢の先行きは不透明で、①和平交渉妥結による早期制限解除、②交渉長期化による通航制限の継続、③紛争の再激化といった複数のシナリオが想定されます。ただし、仮に早期に通航制限が解除された場合でも、生産設備の復旧や供給体制の正常化に相応の期間を要するほか、各国の備蓄・代替調達の動きなどから、タンカー市況は当面高値圏で推移する可能性が高いとみられます（図表3）。原油価格や原材料価格の上昇だけでなく、こうしたタンカー市況の高騰も物流等のコスト上昇を通じて企業収益の下押し材料になると考えられます。

図表2 原油タンカーの用船料の推移



(資料) Clarksons ResearchよりひろぎんHD経済産業調査部作成

図表3 ホルムズ海峡を巡る3つのシナリオ



(資料) 各種資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

品質向上のためアンケートにご協力ください。



PCの方は  
こちらをクリック

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：竹島 (Tel.082-247-4958) までお願いします。